

石 仏 散 歩

すとーん・さーくる

No.91

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

藤塚浜のサイの神行事

阿賀野市 岩 野 笠 子

紫雲寺町藤塚浜に古くから伝わるサイの神は、雄大な日本海を背景に石仏を中心に入れて火をつける迫力のある行事である。

平成十二年一月十二日のサイの神は藤塚浜漁港（落堀川左岸河口）の砂丘に建てられ、三時三〇分頃神職のお祓いの後に点火された。サイの神の石仏は渡邊長衛宅にお祀りしてあるものを事前に運んでくるという。現在は火の中に入れず外に祀っておき、行事が終わると渡辺宅に安置する。

松田博史は「サイの神の松のもえさし（燃え残りの枝）を持ち帰って家の入口にさげておけば悪魔がこの家には訪れない」というので玄関にさげておいた。（「藤塚浜のサイの神について」紫雲寺町郷土史研究懇話会 昭和六十年四月六日）などと昭和初期の風習を記している。

また、金塚友之丞は「歳の神の起源に就き誠に面白い話が藤塚浜に傳はつてゐる。それは、歳の神様が或時山の神様から若干のお金を借用し、返済期日を正月十五日と定めて置かれたが扱て其の期限が間近になつたけれども一向金策

が出来ない。如何はせんと百万思案を廻らしたが名案はなかなか浮かばず空しく月日は過ぎて遂々正月十四日の夜とはなつた。最早此の上は尋常手段無効と悟られた歳の神様は、其の夜意を決し自己の家に放火されたのであつた。翌五日山の神様から催促を受けるや、實は昨夜自宅から出火して凡ての財産を灰燼に帰したので返金不能となつた旨を告げて山の神様の同情を乞ふた。これが歳の神様のいはれであるといふのである。

（「郷土餘談」新発田新聞 昭和十三年六月二日）と藤塚浜の歳の神の伝承について記している。



藤塚浜のサイの神焼き



火に投じられるサイの神

新潟地区

石仏探訪会報告

新潟市 星 喜久雄

三國街道中の道 分田→笛岡

田上から新津へと歩いて来て、昨年春に阿賀野川に達し、秋には対岸の分田宿、水原の中島宿、笛岡宿と阿賀野市内を歩きました。

十月十七日、昔の渡し場だった稗河原場から三國街道を辿ったわけですが、所どころ旧道が残っていても車の通れない所が多く、旧道を横目で見ながら新設された道を走り抜けることの多い探訪でした。

訪れた多くの石造物は新潟県教育委員会編『新潟県歴史の道調査報告』に紹介されているものですが、水原町史や笛岡村史などに載っているものも訪れてみました。以下はそのなかで私の興味を引いた石造物についての感想です。

道標の川前地蔵

分田の集落を出て水原へ行く道を少し行つたところにY字型に道があり、右が川前、左が分田、その交差点に屋根だけ



川前地蔵

多賀、浮洲神社の権現塔

水原の手前、百津入り口に多賀浮洲神社があります。その境内に散在していた六基の石造物が今は屋根つきの立派なお堂に祀られています。その中の一基が権現塔です。二段の基壇に長方形の石塔、正面に「小笠原権現」左側面に「高尾権現」と刻んであります。権現塔は耳慣れな言葉です。説明板によると祀られて



多賀神社の小笠原権現

【五頭の麓のくらし館】中世仏と五輪塔

この度の探訪ではあちこちで中世仏を見ましたが、大部分は欠損している仏でした。教育委員会の調査報告書に出来る「法華山出土石造物」は地図で示されているところに見当たらず苦労しました。ところがそれは出湯の「五頭の麓のくらし館」に保存展示されていました。とても良い保存状態で、中でも二階の展示室で一基の五輪塔を七

いる小笠原信助は水原代官所第十九代目の代官で天保十三年から嘉永七年まで当地の代官を務め、手代元締の高尾俊助と共に政務を執り、住民に信頼され、また陣屋内に温故堂（学問所）を開き、館内有志に門を開いたとありました。その徳がこの塔になつたのだと思うと小さいながら考えさせられる塔でした。

先日、燕喜館（新潟白山公園内）で知り合いの公演があつた折、初めて白山神社境内をゆっくり散策した。

境内には鳥獸供養碑やふり袖針塚、歯

白山神社の餅つき道祖神

柏崎市 渡邊 三四一

基の石仏がコの字型に取り囲んでいる展示は中世墓地の供養状況を目の当たりにした感がありました。



法華山出土の五輪塔と中世仏



白山神社の餅つき道祖神

群馬県安中市二軒茶屋には寛政八年銘のものがあり、これをモデルに昭和四十四年に新潟県民俗学会の山口賢俊・渡邊赳夫氏らが縁結びの神・白山様に寄進したものである。台座の石臼も心憎い。

そう言えば、以前有志見学会で行つた。信州・穂高神社境内にも同様のものがあつた。豊穰を寿ぐ大らかな日本人の觀念が、餅つき道祖神から窺える。

この日の一番のお目当ては「餅つき道祖神」である。本殿左脇のトンネルをくぐると二体の双体道祖神が祀られる。一つは肩組握手像であるが、もう一つは男神が杵を持ち、女神が臼の餅を返す姿を彫り込んだ「餅つき道祖神」である。餅つきは生殖（子孫繁栄）の象徴。

この日の一番のお目当ては「餅つき道祖神」である。本殿左脇のトンネルをくぐると二体の双体道祖神が祀られる。一つは肩組握手像であるが、もう一つは男神が杵を持ち、女神が臼の餅を返す姿を彫り込んだ「餅つき道祖神」である。餅つきは生殖（子孫繁栄）の象徴。

軽石でお地蔵さまづくり

鈴木悟司氏のワークショップ

村上市の鈴木悟司氏（会員）は、このほど柏崎市立博物館で「軽石でお地蔵様を作ろう」のワークショップを指導。二十四名の参加者が個性あるかわいいお地蔵様やフクロウづくりを楽しんだ。

このワークショップは五、六名の少人数でも実施可。関心のある方は、鈴木氏へぜひ連絡を。TEL 080-2210-8210



指導する鈴木悟司さん



個性あるお地蔵さんたち

事務局だより



待望の春です。二つの見学会が左記のとおり計画されました。大勢のご参加をお待ちします。

◇上越地区石仏見学会のご案内

期日 四月二十九日（祝）10時～15時
テーマ 上越市高士地区——もう一つの塙の道と日本最古の葡萄園石藏——
集合 ①9時30分 直江津駅南口
②10時 上越市公民館たかし
分館駐車場（上越市飯田11-2）

コース 高津（二石六地蔵・羽黒神社石

仏）、飯田（板石地蔵菩薩・日

月神社乳觀音・雁田神社・中氣

地蔵）、昼食（そば処木草庵）、

南方（最光寺）、北方（岩の原

葡萄園石藏・資料館）

参加費 三八〇〇円（昼食代等含む）

定員 二八名
申込み やまだ漫步（上越地区事務局）
TEL 090-4621-4149

※詳細は別紙をご覧ください。

◇新潟地区春の石仏探訪会のご案内

期日 五月二十二日（金）10時～16時

テーマ —新発田編—

探訪地 安樂寺 竜昌寺 荒町の石造物

その他 詳細検討中

白新線新発田着9時28分

参加費 一〇〇〇円（昼食代別）

申込み 新潟地区事務局 大木禊爾
TEL 0256-72-6913

◇二十七年度総会のご案内（予報）

新年度総会予定を左記します。詳細については後日別便でご案内します。ご予定にお加え下さい。

期日 五月十日（日）13時～16時半
会場 長岡まちなかキヤンバス301

第一部 公開講演会

題目 樹木をめぐる信仰民俗（仮題）

講師 三国信一氏（新潟県立歴史博物館主任研究員）

第二部 議案審議

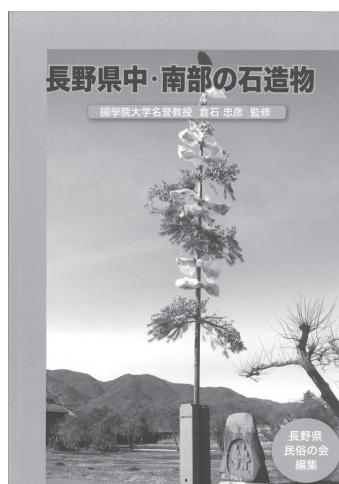
①平成26年度事業報告・決算報告
②役員改選

③平成27年度事業計画・予算（案）
④その他

新刊紹介

長野県民俗の会編『長野県中・南部の石造物』岩田書院 二〇〇〇円（本体価格）

お隣の長野県の中信・南信・東信三地区の主な石造物をガイドブック風に収録。前書『信州の石仏（北信編）』（郷土出版社）の続編。倉石忠彦氏（國學院大學名誉教授）が監修、解説も載せる。



新入会員

林セイ子（新潟市）、猪貝克浩（長岡市）
猪貝昭美（長岡市）

編集後記

原稿がなかなか集まらなくていつも会長さんや事務局長さんに頼っています。時期になりましたらお願ひにあがるかもしれませんのが是非ご協力ください。それでは今年もがんばりましよう。（新潟地区 大木 祢爾）

第三部 懇親会 17時～（別会場）